

株式会社 仙崎鐵工所



COMPANY DATA

業 種 製造業
事業内容 産業用機械装置設計製作、
板金・製缶加工など
創 業 1934年5月
代 表 者 代表取締役 沼りえ
所 在 地 川崎市川崎区小田5-17-5
従業員数 16名

企 業 紹 介

京浜工業地帯の中心である川崎市に製缶業として設立。創業85年という長い歴史のなかで培われた技術を生かした製缶品を提供するとともに、周辺の会社とネットワークを組み、各工程（設計・製造・組立・検査）を取りまとめることを得意としている。仙崎鐵工所が取りまとめ役となることで、用途に合わせた製品筐体の製作・組立・検査の受注を実現。高度な技術が要求される中型から大型の精密製缶品を提供している。



▲社内や各従業員の予定を共有できるカレンダー形式のスケジュール機能。納品日などの共有にも使えます。



▲製缶・溶接の優れた技術者として「平成30年度かわさきマイスター」に認定された矢部功氏。若手の育成にも尽力しています。



▲中型から大型製品を主に製造するため、工場は天井が高く広々としています。

“ 在庫確認から行動予定表作成までクラウドで一元管理。
生産性のアップと長時間労働の抑止を実現 ”

- ①クラウド型生産管理システムの導入とスマートフォンを使った管理により生産性が向上
- ②従業員間の情報共有により相互フォローが可能に
- ③移動時間の大幅な削減で長時間労働の抑止と交通費の削減を実現

1 経 営 課 題
Task

仙崎鐵工所では、製品ごとに担当者が決まっており、材料調達から出荷までの生産管理を行います。そのため担当者の不在時、作業工程や部品の手配状況などが共有できず、作業の遅れや無駄な時間も発生していました。また、生産管理の担当者は営業も兼務。取引先から部品の在庫確認などで帰社しなければならず、移動に時間が割かれ、長時間労働の要因に。さらに現状の生産管理システムは、事務所でしか作業できないのも問題でした。

2 取 組 概 要
Approach

まず長時間労働の問題を解決することを目指し、外出先でも使えるクラウド型生産管理システムの導入を検討。その際、川崎市の補助制度を活用できることを知り、採択されるのであれば検討内容の効果が期待できると考えて申請。導入決定後は、約半月間のシステム移行と新システムの研修を経て、実際に運用しながら受注情報の表示順など、細かな課題も抽出し、システムの導入が一層自社の課題解決につながるようブラッシュアップしているところ。

3 実 施 効 果
Effect

クラウド型生産管理システムになり、取引先での空き時間や移動中にスマートフォンやノートパソコンで見積書作成や在庫確認、発注作業などができるようになりました。帰社して作業する必要がなく、移動時間は1回の取引先訪問で約1時間削減。月単位で約15時間削減され、交通費のスリム化にも成功。部品の手配なども進捗状況を共有できるので、追加発注時も迅速に対応でき、生産性向上と取引先への信頼度アップにつながっています。

成果 1 移動時間削減
約180時間／年

成果 2 交通費削減
8万6400円／年

成 功 要 因

- 同業者との意見交換で自社を客観視できたこと
- ICTコーディネータの的確なサポート
- 会社の規模や事業内容に合ったカスタマイズを行なったこと

さまざまなサポートが課題を改善する手助けに

当社では、10年以上前の生産管理システムを使っており、以前から新システム導入を検討していました。そうした状況の中で、所属団体などの勉強会や説明会に参加していくうちに、徐々に当社の課題は何かが見えてくるように。さらに ICTコーディネーターの方との出会いも大きかったと思います。相談してみると、現行の生産管理システムの一部を活用しつつ、当社の予算範囲内で事業内容に合う新たなシステムの導入が可能だと説明を受け、生産管理システムの移行に踏み切ることができました。

クラウド型になったことで、従業員が作業工程や手配状況などの情報を共有できます。問題が発生してもフォローし合えるので、働きやすい環境が整ったと思います。今は生産管理部門（営業部門と事務部門）のみですが、製造部門でも運用予定で、さらに労働時間短縮や生産性向上が見込めると考えています。

代表取締役 沼りえ

社 員 の 声

- 新しい生産管理システムは入力した見積書がエクセルに変換されるようになっていたので、再度入力する必要がなく作業時間が減り、転記ミス等もなくなりました。
- クラウド型のシステムになってから、取引先から直帰できるので、ゆとりが生まれて家族と過ごす時間が増えました。
- 新しいシステムは処理速度が速く、部分検索できるなど機能性に優れ、操作も簡単なことから業務効率が大幅に向上しました。



今 後 の 展 開

- ・サテライトオフィスの活用で利便性を追求
- ・全部門への本格導入でさらなる生産性向上を図る
- ・今後も様々な支援制度を有意義に活用

